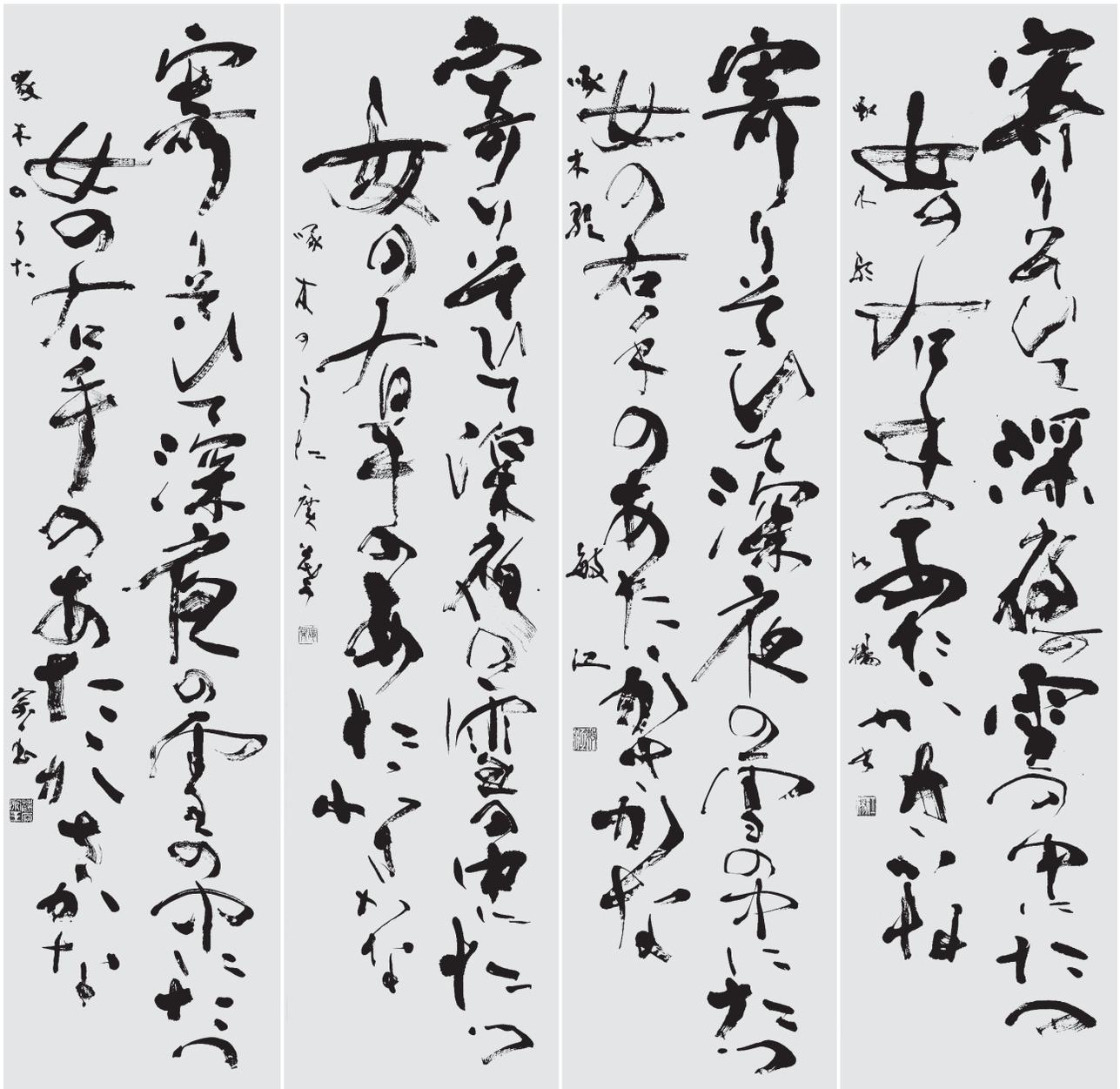


加藤有鄰先生選評



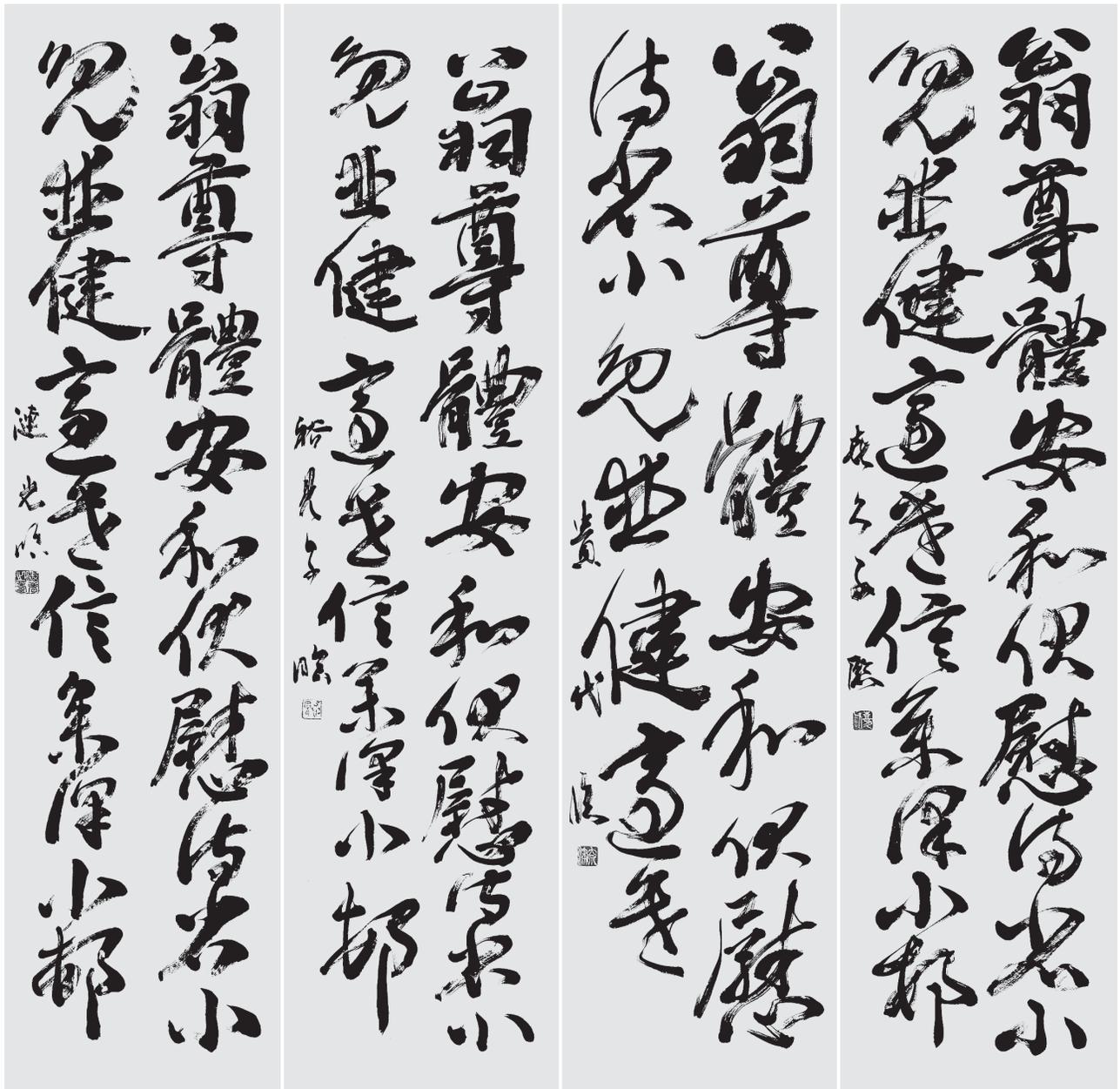
橘川 江揚 推選
薄い墨色を用いて柔らかな表現を試みながら、空間を大きくとり、歌情を豊かにしています。時に引く開放的で温かい側筆が効果的で象徴性の優雅さを与えています。

佐藤 敏江 推選
柔らかなタッチで気負い無く爽やかな筆遣いで纏め、上品な作となりました。行が立ち、直線を主体として美しく余白を響かせています。

野田 廣葉 推選
紙面をたおやかに雄大にして大胆に使い表現しています。落筆が高く、温かな線をもちいており、構えも大きく、力強い魅力的な作品である。

藤原 宗玉 推選
紙面を広く捉えて、温かで自然な運筆が風趣を醸し出しています。軽重のリズムが心地よく響いて余白を美しく見せています。

伊藤漢仙先生選評



森下 喜久子 推選
 迫力のある力強い線質で、
 一气呵成に書かれた実力は
 目を瞠るものがあります。
 濃墨で縦横に抑揚のあるリ
 ズム感が天然の趣をあらわ
 しています。

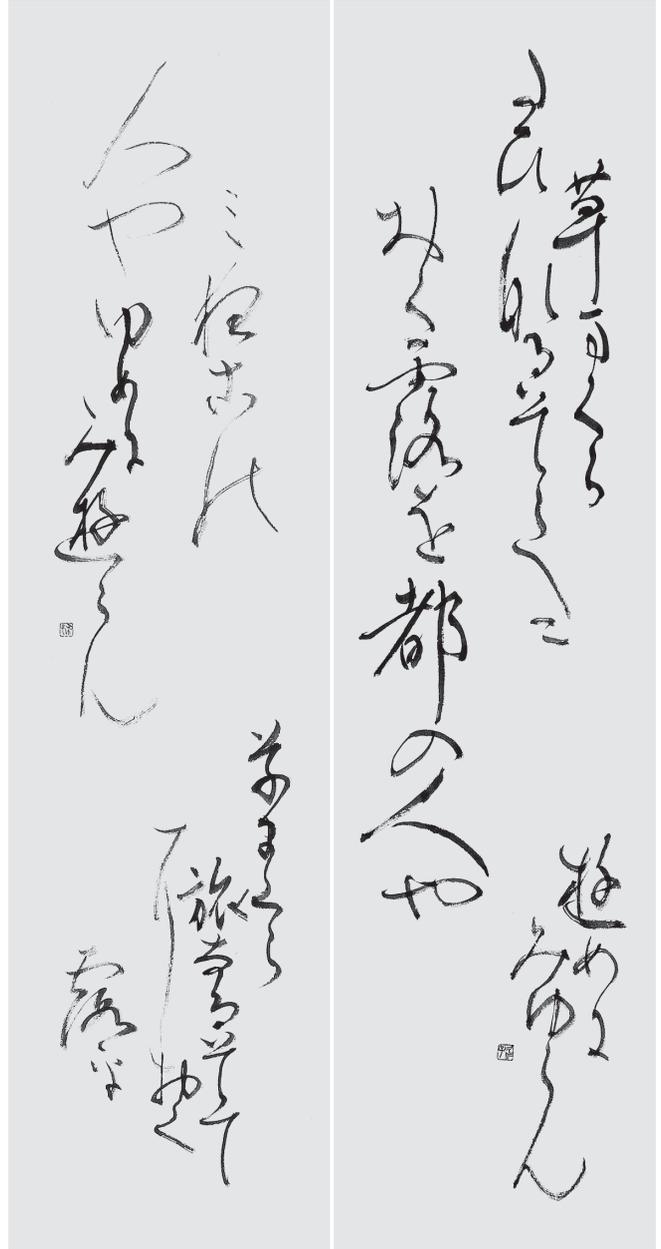
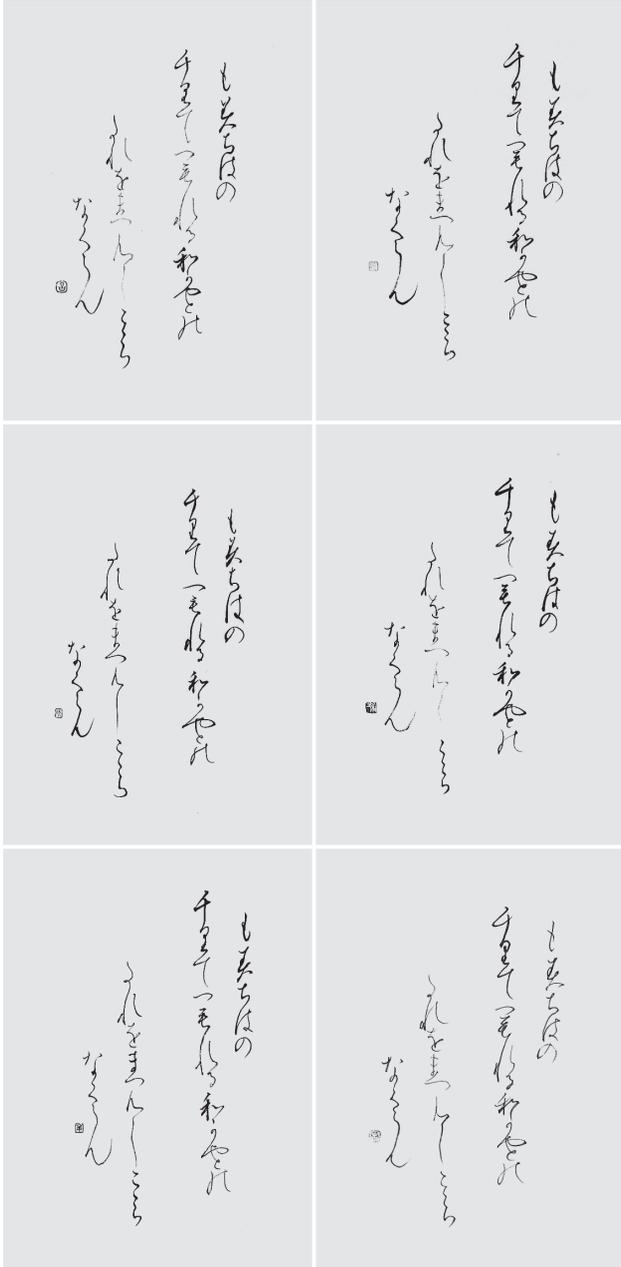
山上 貴代 推選
 この作品は縦横無尽に筆が
 良く動き、瘦肥大小遅速潤
 渴等、あらゆる変化の妙を
 尽くして書作されています。
 章法も抜群で、空間への働
 き方が絶妙です。

井上 裕美子 推選
 参考作品を良く自分のもの
 にして運筆されています。
 線質が深く作者の力強さが
 感じられます。潤渴の対比
 が心地良く、黒と白の調和
 が優れています。

石川 漣光 推選
 伝王羲の書の豪快さが出て
 いて、安定感があります。
 全体を見ると、一貫性のある
 運筆と、縦への流れが自然
 で、太細の変化と収筆の
 払いが見事です。

吉澤真理先生選評

白幡陽子先生選評



石塚昌子 準七
澄んだ筆線で、よく習練された字形と運筆が心地良い。あと少しの潤いが加わると更に冴えある作となるでしょう。

川畑彩春 師範
墨色美しく引き締まった線が魅力です。リズムカルで迷いのないたしかに連筆が全体を貫き師範の実力がみえる格調高い作品に仕上がりました。

松下晃子 五段
ぬくもりある柔軟な線条で筆運びに余裕があります。圧や遅速の変化で優しい表情の作品の中に更なる厚みを出したい。

堀山裕子 師範
古典に心くばりをしたおおらかで温かい作品となりました。筆圧のかかった線質は豊かさや美しい潤濁の変化を生み魅力的です。

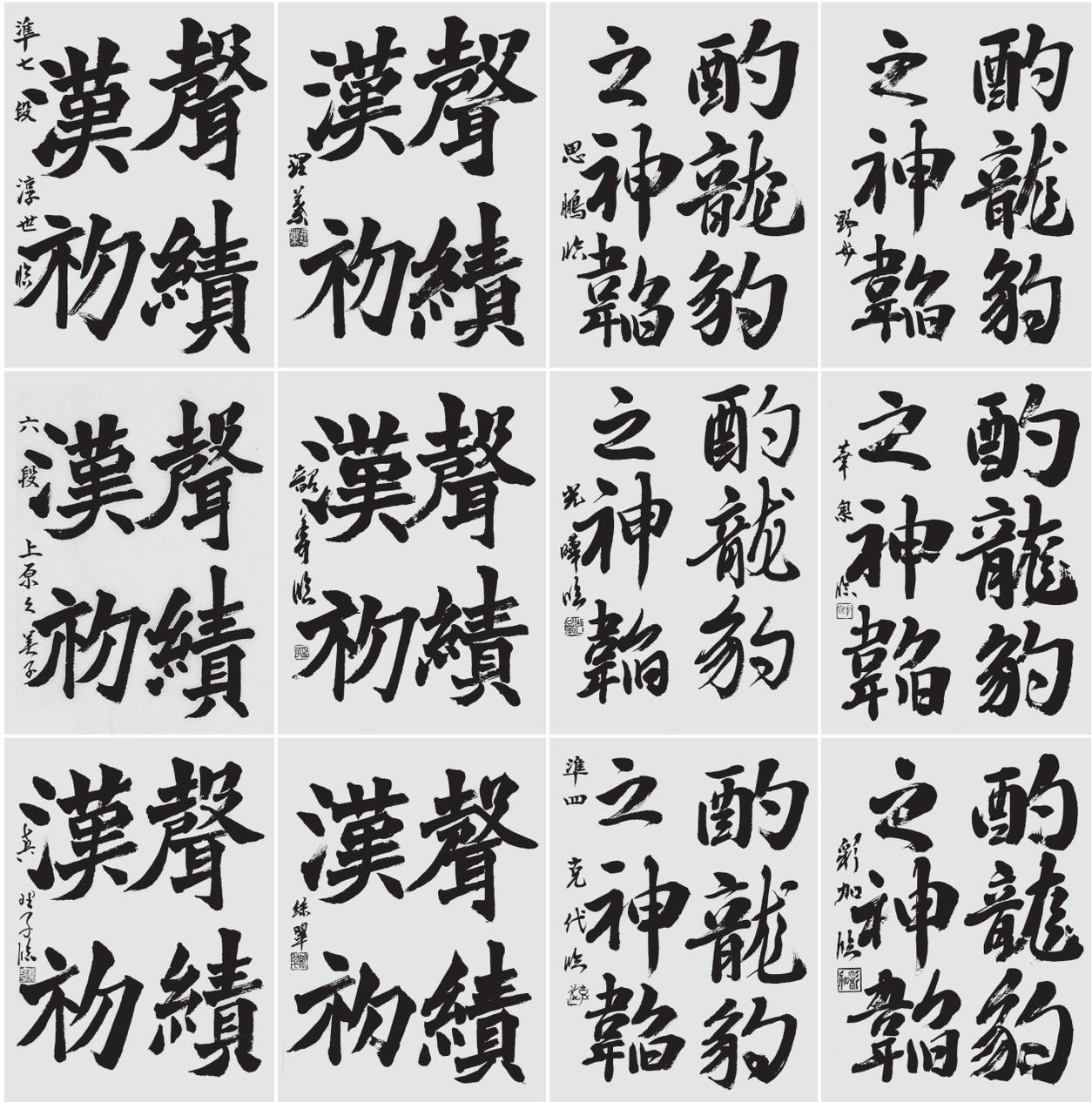
大沼峰子 四段
一字一字丁寧な筆運びで真面目な書作態度に好感です。筆圧や潤濁の変化にも気配りされると更に立体的な作となるでしょう。

有吉恭子 八段
淡墨を使い心のままに表現されました。古典から少々離れた所もありますが、大胆で堂々と書作され字形のおおらかさは味わい深い。

堤 和子 推選
しなやかな筆線。移ろう墨色の美しさは抜群。文字遣い、散らしに個性が光り、疎密、大小潤濁と妙趣ある筆の動き、爽快流麗なリズムが紙面に漲り心温まる作。

栗田久仁子 推選
筆力充実の筆致。躍動のリズム生き生きとし、放ち書きの一字一文字は、意識した和様の筆法を携え堂々しなやか、優美な線条。後半殊更に技量光る快作。

葛西玄涛先生選評



大林野歩 師範
爽やかな印象を強く受けます。澄んだ線と適切な広めの美しい余白が、自然に描かれていることでの効果だ。半紙作品としての完成度が、高い。

若山思鵬 準六
やや鋭角的な始筆からでも温かい線が書けている。筆の弾性を生かす腕の動きが柔らかく、紙に接するときにその柔らかさがよく伝わっている。

坂元理葉 師範
軽重の差が大きな線を巧く調和させています。重めの線も鋭くて、軽やかな明るい仕上がりとなり、軽めの線の爽快さと同じ水準となっている。

中村淳世 準七
縦長な字形の特徴を観察して、大胆に紙面に繰り広げた。このような大きさであっても破綻しないように、二行目の文字の重心を合わせている。

平井華泉 師範
厚みのある線が、紙面に広がりながらも重くならず繊細な美しさが、表現されている。多い墨量での濁筆、落筆の高さが生む円い線が、魅力的。

茶園光暉 四段
とてもよく観察して書かれています。線の角度、長短、太細の特徴をしつかりとらえた王道の臨書です。形だけでなく、空気も読んで表現している。

伊藤韶華 師範
始筆の角度に細心の注意を払いながらも伸びやかな線をたくさん作り出した。特に横画は、遠くに筆を直線的に運ぼうという強い意志を感じます。

上原久美子 六段
それぞれの線が、多種の表情を持っていることを忠実に臨書している。これを深く実践しても軽妙で明るい作品に仕上げる方法を心得ています。

柴崎彩加 準師
弾力のある太い線で、余白を攻めて少なめにして迫力を全面に漲らせた。字間が狭くてもそれぞれの文字が、単体にならずに呼吸が繋がっている。

藤野克代 準四
骨格のしっかりした字形で、直線的な腕の動きが明瞭で簡素な美しさを持つている。小さな文字を加えた難しい構成だが、余白を巧く配置した。

香川絲翠 準師
肩を張るような力強い転折が、堂々としていて、他を寄せ付かせない迫力を感じる。この骨格は、基本姿勢の安定から、表現されるのである。

藤田眞理子 準六
一点一画に心を込めて、真面目に引いていることが、伝わってきます。そして、弾むような筆運びの速度変化で、書の楽しさを伝えてくれます。